リーディングDXスクール事業 【実践事例】

小中一貫校むくのき学園（大阪市立中島中学校）（大阪市）【指定校】

＜教育利用＞ ①英語科「受動態を使った文章でThree Hints Quiz」

事前準備

① Chat GPTを活用して、Three Hints Quizを作成
② 生徒が作成する英文を予想し、想定通りの回答が作成されるか確認
③ 修正案を出すためのプロンプトを事前調整

学びを深めるために

友だちだけでなく、Chat GPTからもヒントをもらってもよいと伝えることで、生徒の思考がより深まるように工夫しました。これにより作った英文がChat GPTに正しく伝わるように、英文を推敲していきます。その過程をクラウドで共有し、学びを自己調整しながら自らの考えをより深めることができました。

指導者より

・生徒が探究する過程を大切にし、クラウドを活用して協働的に学ぶ中で、自らの思考を深めることができるよう工夫しました。また、Chat GPTとの対話から、新たな学びを引き出せるように心がけました。

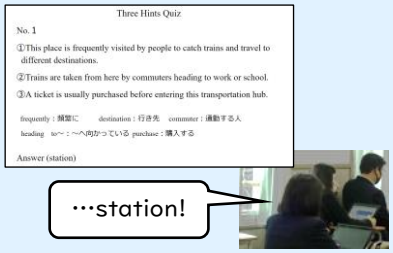
生徒の反応

・生成AIから期待する回答をなかなか引き出せず、どの部分を修正すればよいのか何度も見直しました。
・正しく指示が伝わるように、インターネットで調べたり友だちと相談しながら英文を考えることができました。

授業の流れ

1 Chat GPTを活用して作成したクイズを提示し答えを予想

指導者がChat GPTを利用して作成したThree Hints Quizを「生成AIからの挑戦」として提示し、クイズの答えを予想する。



2 グループで意見交換し、Three Hints Quizを作成

指導者が示した例を参考にして、グループでThree Hints Quizを作成し、Google Classroomのストリームに投稿する。

3 作成したクイズをChat GPTに出題（Chat GPTは答えられるかな？）

「生成AIへの挑戦」として、作成したクイズにより、ChatGPTから期待した答えが作成されるかを確認する。

4 あらかじめ考えていた回答になるように英文を工夫

期待した答えを作成しなかった場合、どのようにすれば正しい答えが作成されるのか考え、英文の修正を繰り返す。